

フットボールスタジアム検討協議会 第4回会議 会議概要

1 会議の概要

日 時：令和8年8月25日（火）13:00～14:35

場 所：岡山県庁分庁舎4階 企業局大会議室

出席者：上林座長、池田委員、西明寺委員、服部委員、堀委員、松井委員、
松田欣也委員、松田正己委員、森井委員

2 議 事

「実現可能性の取りまとめに向けた確認・検討事項」についての議論

3 会議経過

- (1) 「第3回会議の主な論点及び対応方針（案）」に関する質疑応答が行われた。その結果、対応方針（案）のとおり了承された。
- (2) 「フットボールスタジアムの整備に関する県民アンケート調査結果（確報）」に関する質疑応答及び議論が行われた。その結果、スタジアムの実現可能性を検討するための論点（案）及び実現可能性の取りまとめに向けた確認・検討事項（案）のとおり了承された。
- (3) 「岡山県におけるスタジアムのありたい姿」のうち「新設又は改修により見込まれる効果等」に関する質疑応答及び議論が行われた。その結果、見込まれる効果等について、一部文言を修正の上、議論を進めることが決定された。
- (4) 「岡山県におけるスタジアムのありたい姿」のうち「想定されるパターン」に関する質疑応答及び議論が行われた。その結果、A（まちなか型）、B（郊外型）、C（スポーツパーク型）、D（現スタジアム改修型）、A＋C及びB＋Cの計6パターンそれぞれについて、事務局から候補地を提示し、今後の比較検証を進めることが決定された。
- (5) 「未利用県有地一覧（4ha以上の土地）」に関する質疑応答及び議論が行われた。

また、次回の会議で「場所・立地の比較検証」に関する部分については非公開とすることが決定された。

- (6) 「主な事業スキームの整理」に関する説明が行われた。

4 議事要旨（主な意見等）

議事について、委員間で議論を行った。主な意見は次のとおり。

【第3回会議の主な論点及び対応方針（案）】

- 第3回会議において、具体的な候補地の提示がなければ議論が難しいとの意見があったと認識している。また、今回示された未利用県有地は、昨年度の県議会特別委員会で県としてスタジアム整備に適した土地はない旨の整理がされていたと認識している。その未利用県有地のみが今回提示されているが、未利用県有地以外の候補地についてもあわせて提示してほしい。来年（2027年）3月末までに議論の結論が得られるのか、スケジュール感も勘案して議論を進めていきたい。
- 調査は随時進めており、本日（第4回）の議論を踏まえ、次回（第5回）会議で提示する。（事務局発言）

【フットボールスタジアムの整備に関する県民アンケート調査結果（確報）】

- 検討協議会の内容を共有し、スタジアムに対する理解度の向上を図りながら、今後も引き続き子どもたちから意見を集めることが重要だ。
- 自由記述式のアンケートでは子どもが意見を書きづらいため、ワークショップ等により子どもと一緒に事業を考える機会を設けることが重要であると思料する。
- 新聞でも野球やサッカーの競技人口の減少が報道されており、新スタジアムについては、スポーツを「みる」だけでなく、「する」場とすることを考えることが重要だ。

【岡山県におけるスタジアムのありたい姿】

- 県民のニーズを勘案し、災害時に役立つ防災拠点として整備することが望ましい。サッカーのためだけでなく、近年増加している地震や豪雨への対策、防災の観点も十分に盛り込み、スタジアムの価値を高めてほしい。
- スタジアム新設の目的として、サッカーの競技環境の改善だけでなく、交流人口を増加し、民間投資を呼び込み、若者が集まり、地域経済が回るプラットフォームとして設計すれば、より大きな効果が期待できる。単なるスポーツ施設としないことを念頭に置いて検討を進めたい。

- 交通計画や公共交通利用の視点からも、検討すべき事項や見込まれる効果があると思料する。また、候補地に関連する市町村のマスタープランや交通計画、土地利用に関する計画も重要になるため、それらも参照すべきだ。
- 民間事業者の参画しやすさも考慮してほしい。また、見込まれる効果に利用者の視点が欠けていると思料する。現スタジアムは他県のスタジアムと比べて環境が整っているとはいえないため、新スタジアムについては、ファジアーノ岡山の選手やサポーターにとって不利にならないようにしてほしい。さらに、新スタジアムの候補地の選定において、交通アクセスは重要な評価軸だ。
- スポーツ施設は収益を生み出せる施設でなければならないと考える。スポーツの振興やまちの活性化も重要だが、事業を持続的に継続するためには経済効果も重要だ。
- まずスタジアム新設を検討し、それが不可という結論が出た場合に改修を検討すべきだ。先に効果等を議論するのではなく、スタジアム新設の候補地を一覧で提示してもらい、各候補地に新設した場合の効果を検討することが望ましい。
- 「スタジアムの新設又は改修により見込まれる効果」を実現できれば、県民にとっても非常に良いスタジアムになる。改修を求める県民に対し、検討結果とその理由を併せて説明することも検討協議会の役割であると考ええる。
- 改修案を選択した場合、改修期間中にファジアーノ岡山の試合をどこで実施するかという議論も必要になる。また、バックスタンドが道路沿いにあり、バックスタンドに屋根を設置することが難しいという状況でもある。まずはスタジアムの新設を想定し、スタジアムの具体的な候補地を検討すべきだ。
- パターンA（まちなか型）、パターンB（郊外型）、パターンC（スポーツパーク型）、パターンD（現スタジアム改修型）に、パターンA＋パターンC案、パターンB＋パターンC案のパターンを追加し、計6のパターンそれぞれについて候補地をいくつか提示した上で、比較検証

を進めていく。

【その他】

- 本日の議論で了承された論点について、ロードマップを作成し、なるべく早く委員に共有してほしい。